

献血運動推進誓う

岐阜市で全国大会 紀子さま参列

「第60回献血運動推進全国大会」が18日、岐阜市長良福光の長良川国際会議場で開かれた。日本赤十字社名誉副総裁を務める秋篠宮紀子さまも参列され、県内外の関係者約1500人が若年層の献血機運を高めていくことを誓い合った。（古家政徳）

厚生労働省と日本赤十字社、県が主催。都道府県の持ち回りで毎年、開かれており、岐阜県では1976年の第12回大会以来48年ぶりの第12回大会となった。



献血運動推進全国大会であいさつされる秋篠宮紀子さま
—岐阜市長良福光、長良川国際会議場（撮影・堀尚人）

学生ボランティアを激励



献血について思いを発表する子どもたちに笑顔で拍手を送られる秋篠宮紀子さま—岐阜市西部中島、日本赤十字社県支部（撮影・坂井晴香）

○「紀子さまは大会参列に先立ち岐阜市西部中島の日本赤十字社県支部を訪れ、県学生献血ボランティアを激励。『学生生活を送る中で啓発活動に取り組んでいただき、うれししいしありがたい』と語りかけた。

同ボランティアは県内の大学生や高校生ら約350人が登録。定期的に街頭の献血会場で協力呼びかけに参加しているほか、夏には「サマー献血キャンペーン」を行っている。

紀子さまは、8月3日の体験発表では、當房綾野さん（37）＝岐阜市＝が小学2年の次女が6年前、脳腫瘍の手術で輸血を受けたことを話し「真白だった娘の足の裏と指先がピンク色になり、温かくなるのを感じてホッとして涙が出た」と献血への感謝を口にした。県学生献血ボランティアの亀山友花さん（21）＝岐阜保健大4年＝は「看護師として献血の血液を患者に届ける仕事ができることを

式典で紀子さまは、昭和天皇記念献血推進賞を受けた三菱重工業など功労者の表彰を行った後「献血可能な年代の人口が減少し、若い世代が献血に積極的に参加することが求められている。大会を契機として献血運動の輪がさらに広がっていくことを願う」と述べた。

紀子さま、児童と「血育かるた」で交流も

キャンペーンで使うポスターや看板などの作製風景を見学。同ボランティアの田中雅敏さん（25）＝岐阜薬科大6年＝は「若い人により多く協力していただくと良いですね」とお声がけいただいた」と喜んだ。

献血セミナーでは、本県市の外山小学校の5、6年生17人と共に献血の意義や血液の働きが学べる「血育かるた」に参加。児童に交じって札を取り、「つなげよう 命のバトン 献血で」の札を読み上げた。乾怜喜さん（11）＝同5年＝は「優雅に札を取られていた」と話した。

岐阜市学園町の木育施設「ぎふ木遊館」にも立ち寄り、子どもたちが木製遊具や木のおもちゃで遊ぶ様子を温かく見守った。



夢見ている」と語った。響いの言葉では、同ボランティア代表の森島詢さん（21）＝岐阜協立大4年＝が「ベテランと若者が世代の壁を越えて一緒に献血推進の活動を積極的に進めていく」と力強く語った。